広島大学附属三原学校園研究紀要　第４集　2014　pp. 181-186

音　楽　科

# 幼・小・中一貫カリキュラムによる音楽科の授業実践２

## —リズムを聴き取り表現する能力を系統的に培う—

泉　谷　正　則

## １　はじめに

現在の学校教育現場では，異校種間の連携が充分とは言えない。小学校で学んだことを中学校でどのように伸ばし発展させていくか，また，中学校のどのような姿を目指して小学校で何を学ばせていくのかについて，より詳細な検討が必要である。近年，小中一貫校は増える傾向にあるが，そこで見られる音楽科のカリキュラムの多くは題材を並べたもので，量的も膨大であるため，長期的にどのような道筋でどのような能力を培おうとしているのかが分かりにくい。そこで，本学校園の音楽科では幼・小・中 12 年間にわたる目標をできるだけ分かりやすく見渡せ，そこから様々な授業を展開したり，達成度を評価したりすることができるような新しいカリキュラムの開発を試み，実践検証を行ってきた。目標をできるだけ分かりやすくとらえ，各校種の指導者が共通の意識をもって授業を開発していくことで，それぞれの授業がその場限りのものになるのではなく，系統性をもって結びつくいていくことが可能になると考える。音楽要素を知覚し感受する力をいかに身に付けさせていくのかは，新学習指導要領で新たに「共通事項」として設定されたことで現在の音楽科教育の主流な課題の１つとなっている。しかし，そこでは音楽要素を言語で理解し言語を通して評価する実践が多く見られ，音楽的な感覚として身に付いていない場合も多い。言語教育重視の風潮に流されるのでなく，音を聴き分け表現するという音楽の特質，本質を考えたカリキュラム及び授業の開発が必要であると考える。

一貫カリキュラムの開発は，Bloom の「教育目標の分類学」を音楽科教育に援用した緒論等の比較検討や，現在の指導要領や教科書を比較検討によって行った。そして，表１に示したカリキュラムを開発した。以下このカリキュラムについて説明する。

一貫カリキュラムでは，教育目標を大きく「関心・意欲・態度」「できる（技能）」「かんじる（感受）」「わかる（知覚・知識）」「価値づける」の領域でとらえる。以下，この５つの目標領域について説明する。

【関心・意欲・態度】

「関心・意欲・態度」すべての場面で不断にもとめられるこうどうである。どのような目標をもった授業や場面においても，音楽活動に積極的な感情をもって取り組むことは常に意識されるべきである。

【できる】

器楽や歌唱などの技能の習得である。

【かんじる】

指導要領で言う「感受」にあたるもので，音楽を形作っている要素やそれらの関係から，何らかの感情を抱いたり，イメージ（色や情景など）を思い浮かべたりする行動である。

【わかる】

２つの行動からとらえる。１つは，音楽の要素やそれらの関係を「知覚」することである。もう１つは，音楽の要素やそれらの働きを表す用語や記号，楽器の構造や音楽の歴史的・文化的背景などを知識として知ることである。

# 表１　幼・小・中一貫音楽科カリキュラム

| 校種 | 学年 | 関心・意欲・態度 | できる<br>技能 | かんじる<br>感受 | わかる<br>知覚 | わかる<br>知識 | | 価値づける |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ◆音楽活動への関心・意欲・態度 | ◆鍵盤ハーモニカ，リコーダー，その他の楽器，合唱，指揮 | ◆音楽の要素やそれらの関係が醸し出す気分や感情や雰囲気を感じたり，色や情景などのイメージをもつ。 | ◆音楽の要素やそれらの関係がわかる。 | ◆楽器の構造や奏法，演奏形態<br>◆作品の歴史的・文化的背景 | ◆音楽の要素やそれらの働き表す用語や記号を知る。 | ◆音楽の良さについて，根拠をもって説明する。 |
| 幼稚園 | | ○音楽に合わせて楽器の演奏（タンバリン・すず・カスタネット・トライアングル・小太鼓・大太鼓・シンバル・木琴・鉄琴）<br>○廃材による楽器作り（例：どんぐりマラカス）<br>○歌唱（季節の歌・行事の歌・手遊び歌など）<br>○きれいな声で，もりあがりを強弱で表現<br>○ごっこ遊びの中での音づくり<br>○活動にあった歌や音 | | | | | | |
| 小学校 | 1 | ○楽しく歌を歌ったり，体を使って表現しようとしている。 | ○鍵盤ハーモニカ<br>（ドのポジションで5指）<br><br>○歌唱<br>（模唱で歌える） | ○題材からイメージをもつ<br><br>（例）『はるなつあきふゆ』を「くじら」は元気よく，「ふわり」は優しく，といったイメージをもつ。 | ○一定の拍がわかる。<br>（例）一定の拍で手拍子ができる。<br><br>○強弱の変化がわかる。<br>強弱 | ・打楽器 | | （例）私は，音が強いので，明るい感じがする曲だと思います。 |
| | 2 | | ○鍵盤ハーモニカ<br>（ポジション移動で5指）<br><br>○歌唱<br>（ド～高いドまでの音程を正しく歌える） | ○音楽からようすや気持ちを思いうかべる。<br><br>（例）『人形のゆめと目ざめ』の速さやリズムの違いから，曲の様子を思いうかべる。 | ○打楽器の音色の違いがわかる。<br>（例）『森のカーニバル』で演奏されている打楽器の音色を聴きわけることができる。<br><br>○2拍子の3拍子の拍の違いがわかる。<br>（例）『アラベスク』と『メヌエット』を聴いて2拍子と3拍子の違いがわかる。<br>拍の流れ | ・打楽器 | ・4分音符<br>・8分音符<br>・2分音符<br>・4分休符<br>・8分休符 | （例）私は，スキップしているみたいだからウッドブロックの方が好きです。 |
| | 3 | ○進んで音楽にかかわり，意欲的に音楽活動をしようとしている。 | ○鍵盤ハーモニカ<br>（指くぐり，指またぎ）<br><br>○ソプラノリコーダー<br>（タンギング，ド～高いレ）<br><br>○歌唱<br>（自然な声の出し方で歌う） | ○旋律の音の動きやリズムによる雰囲気の違いを感じる。<br><br>（例）『山のポルカ』の前半の旋律のリズムと後半のリズムから旋律のイメージの違いを感じる。 | ○旋律の音の動き（高低の変化）がわかる。<br><br>（例）『メヌエット』の曲想の変化が音の動き（高低）の違いであることに気づく。<br>高低<br><br>○リズムによる曲想の違いがわかる。<br>（例）曲の速さは同じだけど，リズムによってゆっくりに感じたり急いだように感じたりすることに気づく。<br>リズム | ・金管楽器 | ・ト音記号<br>・五線と加線<br>・ブレス<br>・付点2分音符<br>・付点4分音符<br>・4分の4拍子<br>・4分の2拍子<br>・4分の3拍子<br>・タイ | （例）私は，音が高くなったり低くなったりしてはずんで明るい感じがするのでこの音楽が好きです。 |
| | 4 | | ○ソプラノリコーダー<br>（高いミファソ）<br>（サミング）<br><br>○歌唱<br>（響きのある声で歌う） | ○旋律の終わる感じと続く感じの違いを感じとる。<br><br>（例）『とんび』の1・2フレーズの違い（続く感じ・終わる感じ）を感じる。 | ○2つの旋律が追いかけたり，重なり合っていることがわかる。<br><br>（例）『ファランドール』の2つの旋律が追いかけっこしていることに気づく。<br>音の重なり | ・木管楽器 | ・リピート記号<br>・8分の6拍子<br>・スタッカート<br>・付点8分音符<br>・16分音符<br>・シャープ<br>・ナチュラル<br>・p，mp，mf，f<br>・クレシェンド，デクレシェンド | （例）音が強くなったり弱くなったりして激しいところが迫力があるのでこの音楽がいいなと思いました。 |
| | 5 | ○進んで音楽にかかわり，意欲的に自分の思いを音楽活動に生かそうとしている。 | ○ソプラノリコーダー<br>（♯ソ，♯ファ）<br><br>○歌唱<br>（遠くに響かせる声で歌う） | ○長調と短調の気分の違いを感じる。<br><br>（例）『赤いやねの家』と『一輪の赤い花』を聴き比べて，音楽の気分の違いを感じる。<br>○和音の終わる感じと続く感じ<br><br>（例）『威風堂々』の和音進行から，続く感じと終わる感じの違いを感じる。 | ○旋律のくりかえしや変化に気づく。<br><br>（例）『ハンガリー舞曲』の曲想や速さの変化に気づき，旋律が繰り返されるようすがわかる。<br>旋律<br><br>○旋律に合う和音があることや，主和音の響きの違いや和音の移り変わりに気づく。<br><br>（例）『威風堂々』の曲想の変化から特徴的に和音が使われている部分を聴き取り，和音の響きの移り変わりがわかる。<br>和音の響き | ・琴，尺八<br>・弦楽器 | ・アクセント<br>・ヘ音記号<br>・全音符<br>・1番かっこ，2番かっこ<br>・フラット<br>・スラー<br>・長調と短調の音階 | （例）『ハンガリー舞曲』を聴いて<br>・曲がずっと一緒ではなく，場面によって速度の違いがあっておもしろいなと思いました。<br><br>（例）曲の前半は，流れる感じでテンポも速かったけれど，途中で速さが変わり伴奏の部分が一つひとつ刻まれた感じになった。そこで和音が使われていて，和音の響きがどんどん変わっていくところがいいなと思いました。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 6 | | ・ソプラノリコーダー<br>（♭シ，♯高いド）<br><br>○歌唱<br>（音が跳躍する時の声の出し方・響かせ方） | ○我が国の音楽や諸外国の音楽の特徴を聴き分ける。<br><br>（例）『越天楽今様』と『アンデスの祭り』のリズムや旋律の雰囲気の違いを感じる。<br><br>○作曲者が曲にこめた想いを歌詞や旋律から感じとる。<br><br>（例）『広い空の下で』の旋律のもりあがりと歌詞から，作曲者が曲にこめた気持ちを感じとる。 | ○曲想の変化を感じ，音楽の仕組みに気づく。<br><br>（例）『木星』の曲想と音色の変化から，音楽の仕組みに気づく。<br><br>形式 | ・日本の楽器<br>・世界の楽器 | ・速度記号 | （例）『世界の国々の音楽』<br>音楽や楽器の特徴にふれ<br>れぞれの音楽のおもしろさ<br>る。 |
| 中学校 | 7 | ○音楽活動を受け入れる。<br><br>○音楽活動に楽しさを感じる。<br><br>○グループ活動をする。<br><br>（例）リーダーや伴奏者を中心に，パート練習やアンサンブルの練習をする。 | ○アルトリコーダー<br>（低いファ～高いソ）<br>（サミング）<br>（タンギング）<br>（二重奏）<br>○筝<br>（筝の正しい姿勢や基本的な奏法）<br>○歌唱<br>（バランスのよい姿勢）<br>（腹式呼吸で発声）<br>（曲にふさわしい発声，合唱と民謡）<br>（言葉のまとまりをはっきり発音する）<br>（2部合唱，簡単な混声3部合唱）<br>○指揮<br>（テンポやタイミングをそろえる） | ○音楽の要素が醸しだす雰囲気を感じる。<br><br>（例）『春』について，バイオリンの高音で張りのある音色，軽やかなリズムから，鳥の鳴き声や春の明るい雰囲気を感じる。<br><br>（例）『魔王』の音色の変化から，登場人物をイメージする。<br><br>（例）「主は冷たい土の中に」の4つのフレーズの違い（続く感じ，終わる感じ）を感じる。<br><br>（例）「カリブ　夢の旅」の前半（静かでなめらか）と後半（力強く，弾んだ）の曲想の違いを感じる。 | ○音楽の要素がわかる。<br><br>（例）『春』を聴いて，次のことを聴きとる。<br>・各楽器の音色<br>・各楽器の相対的な音高の違い<br>・リズムや強弱の変化<br>・形式（ソロと合奏）<br><br>（例）『魔王』を聴いて，登場人物による音色の違いに気づく。<br><br>様々な音楽の要素 | ・アジアの諸民族の音楽<br>・筝，尺八<br>・日本の民謡 | ・音符・休符<br>・「音高の変化」「強弱」「反復」「速度」「演奏の仕方」などを表す記号<br>・既習の音符・休符によるリズム<br>（3連符を含む）<br>（16部分音符・休符は含まない）<br>・大譜表と音名<br>・長調と短調の音階<br>（全音と半音）<br>（階名，主音，調号，臨時記号）<br>（ハ長調，ヘ長調，ト長調）<br>（イ短調，ニ短調，ホ短調）<br>・音程<br>・三和音<br>（和音記号，主要三和音）<br>・主旋律，と副次的な旋律<br>・旋律の重なり<br>（オクターブ，ハーモニー，<br>追いかけ合い）<br>・フレーズ（旋律の自然なまとまり）<br><br>（例）「演奏の仕方」を表す記号<br>『春』の楽譜にある「tr.」（トリル）という記号とその奏法を知る。 | （例）「映画音楽」を聴いて，<br>そのイメージを表現するため<br>な工夫（速度，リズム，強弱<br>音色など）をしているのかに<br>明する。 |
| | 8 | ○音楽活動に自ら関わろうとする。<br>（例）パート練習等で，練習の進め方や表現の工夫について意見を言おうとする。<br>（例）リーダーや伴奏者に立候補する。<br>（例）授業内容と関連した音楽を探し，学校外でも音楽を聴いたり，演奏会に行ったりする。 | ○アルトリコーダー<br>（♯ファ，♭シ）<br>（二重奏）<br>○歌唱<br>（のどを開き，胸腔，鼻腔を意識して，より響きのある歌声）<br>（歌詞や言葉の意味や語感に応じて，歌い方を変える）<br>（混声三部合唱）<br>○指揮<br>（左手で表現する） | ○音楽の要素や要素同士の関係による曲想の違いを感じる。<br><br>○歌詞の語感（言葉から受ける主観的な感情）を感じる。 | ○音楽の要素や要素同士の関係がわかる。<br><br>（例）『夏の日の贈りもの』の4小節の旋律の階名と音の高低を視覚的に書き出し，歌った時の強弱の変化との関係に気づく。<br><br>要素と要素の関係 | ・パイプオルガン<br>・オーケストラの楽器<br>・世界の諸民族の音楽（歌）<br>・日本の郷土芸能<br>・歌舞伎<br>・文楽<br>・オペラ<br>・ア・カペラ | ・16分音符・休符を含んだリズム<br>・パートの名前<br>（ソプラノ，アルト，男声）<br>・パートどうしの音量のバランス<br>（主旋律，飾りの旋律，和音をつくる音）<br>・コードネーム<br>・曲の形式<br>（1部形式，2部形式，3部形式）<br>（ソナタ形式，フーガ） | （例）ベートーヴェンの『交響<br>について，ソナタ形式（2つ<br>格とその変化，コーダの役<br>ケストラの楽器の音色に気<br>ら，この曲の良さを感じ，説<br>ができる。 |
| | 9 | ○音楽活動に自ら関わり，高めようとする。<br><br>（例）生徒による指揮者を中心に，意見を交流し合いながら，より豊かな合唱表現を追求しようとする。 | ○アルトリコーダー<br>（♯ソ，♯高いド）<br>（三重奏）<br>○歌唱<br>（のどを開き，胸腔，鼻腔を意識して，美しく迫力のある歌声で歌う）<br>（混声四部合唱）<br>○指揮<br>（歌詞や曲の雰囲気を体全体で引き出す左手で表現する） | ○音楽の要素やそれらの様々な関係が醸し出す曲想の違いを感じる。<br><br>（例）『ブルタバ』を聴いて，音楽の要素（楽器の音色，強弱，リズムなど）によって醸し出される様々な情景を想像する。 | ○音楽の要素やそれらの様々な関係に気づく。<br><br>（例）『風の中の青春』の4つのフレーズについて，3つのパートの役割（主旋律，副次的な旋律，同じリズムでハーモニーとなる旋律）の変化と，それによる音量バランスの変化に気づく。<br><br>要素同士の様々な関係 | ・クラシック音楽の名曲<br>（合唱，器楽，オーケストラ，バレエ音楽，オペラ）<br>・雅楽，能<br>・世界の諸民族の音楽（器楽）<br>・ポピュラー音楽<br>（ロック，ジャズ）<br>・日本の音楽の歴史<br>・音楽著作権<br>・音楽史<br>（西洋，日本） | ・タイのついたリズム | （例）西洋音楽の歴史から，<br>の音楽の特徴を様々な既習<br>使って詳しく説明しながら，<br>の音楽の魅力について説明<br>できる。 |

【価値づける】

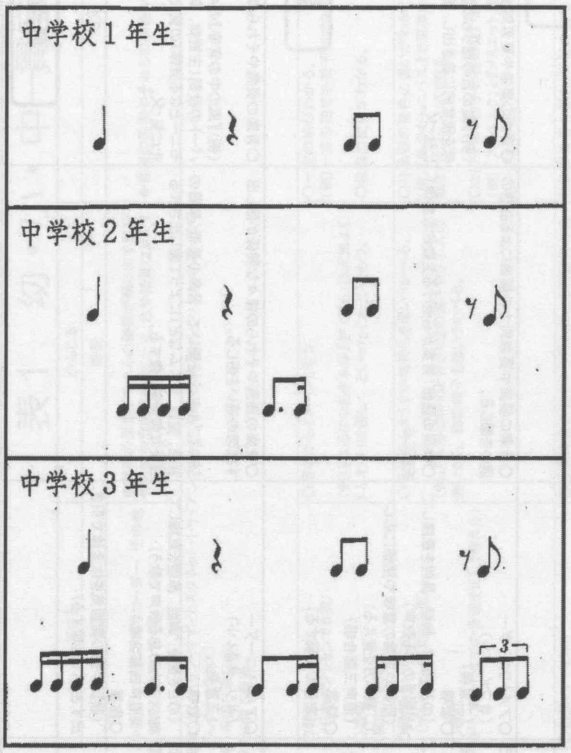
| |
|---|
| 音楽について，自他の演奏について，以上の「できる」「かんじる」「わかる」能力を根拠に，説明したり，批評したりすることである。 |

このカリキュラムでは，つけたい全ての能力を網羅するのではなく，それらをできるだけ一般化したり，新しく学習する内容や，重視したい内容を示した。さらに，（例）をあげることで，具体的な学習場面をイメージしやすいよう考えた。

## ２　研究の方法

本年度，12年間を通した研究の一つとして，２つの実証検証を行った。１つは，音楽の要素から「リズム」に，対象を「中学校」に絞った実践，もう１つは，内容を「日本の伝統音楽　箏」に対象を「中学校１・２年生」に絞った実践である。

**表２　中学校３年間のリズム学習**




音符と休符については，中学校の歌唱や器楽曲で一般的に使用するものは，全て１年生でその名前や長さを覚えるように計画しているが，ここで系統的な学習を仕組むのは，それら音符や休符によるリズムを楽譜からイメージできたり，聴き分けたり，表現できたり，感じ取ったりする能力の学習である。表２に示したように，各学年で必ず習得するリズムを決め，学年を追うごとに全学年での学習内容を含みながら新たな内容を習得していくように設定した。ここで示したリズム以外に音楽活動でよく使用するリズム（タイのついたリズムも含めて）もあるが，それらは，歌唱や器楽などの活動のなかで必要に応じて指導する。

### (1) 対象

第７学年

### (2) 授業構成

・題材

リズムを組み合わせて手拍子しよう

・ねらい

４種類のリズムを組み合わせながら，リズムを創作し，表現することができる。

### (3) 授業の概要

第１次では，６種類のリズムやそれらをランダムに組み合わせたリズムを手拍子することで，楽譜を見てそのリズムを手拍子できるようにする。

第２次では，既習のリズムを組み合わせ，４分の４拍子／２小節のリズムを創作し手拍子をすることで，前回の学習をより確かなものにさせる。

第３次では，前回創作した作品をグループで交流し，そこから１つの作品を選び，グループ全員で言葉を考えてつける。グループで練習して，クラスで発表会をする。

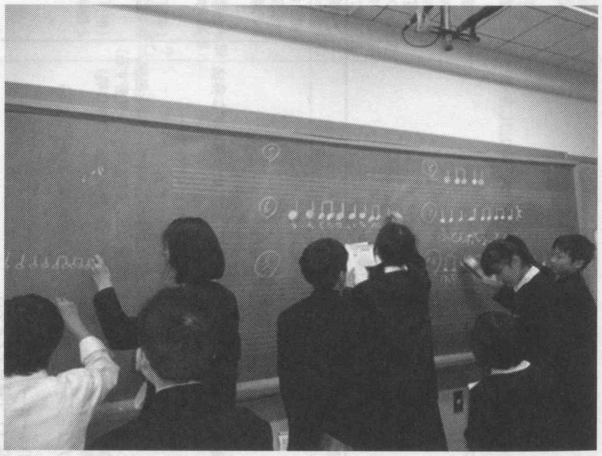


**図１　各グループの作品を板書して交流**

**(4) 成果と課題**

全員がリズムの楽譜を見て正しく手拍子ができるよう，創作した４小節のリズムは教師に手拍子をして見せ合格シールをもらう，という形で行った。そのことで，個の指導が徹底してでき，達成感をもって次のグループ活動に意欲的に取り組むことができた。グループでの発表の場をつくることで教え合いの場が生まれ，より学習が確実なものになった。言葉をリズムにつけることで，活動への関心がより高まった。生徒は自然にリズムの感じに合った言葉を考えようとしており，リズムを音としてだけでなく，イメージをもって感じ取ろうとする学習にも繋がった。

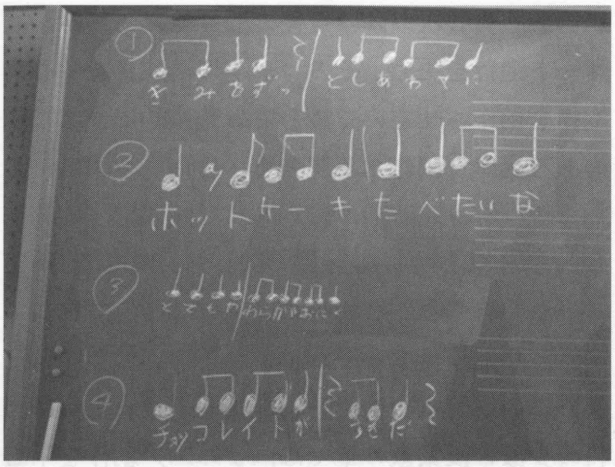



図２　グループの作品

課題として，学習内容としてもう何種類かのリズムを追加しても良かった。生徒は，簡単で取り組みやすいということもありスムーズに発表までを行うことができたが，表２の中学校１年生の４種類のリズムは何れも小学校で学んでいるものであり，復習の内容だけに設定する必要はなかった。

図３　発表の様子

**(1) 対象**

第８学年

**(2) 授業構成**

・題材

リズムとリズムを合わせよう

・ねらい

追いかけ合いなどパートの重なりに気づきながら，２つのパートによるリズムを創作し表現することができる。

**(3) 授業の概要**

第１次では，７年生で習得したリズムに新たに２つのリズムを加え，それらのリズムや組み合わせたリズムを楽譜を見て手拍子できるようにする。

第２次では，４分の４拍子／８小節のリズムを個人で創作し，それを班で発表し合う。創作したリズムから班で１つのリズムをパート①として選び，それにパート②を班全員で話し合いながら創作する。パート②の創作のヒントとして，２部合唱の例を聴かせ，追いかけ合いやパートの重なりについて気づかせる。

第３次では，各班で創作したリズムを発表し合い，気づきを交流する。

**(4) 成果と課題**

創作や発表までの練習がスムーズであり，７年生での学習が活かされていた。創作のポイントを気づかせるのに，既習曲である『翼をください』を聴かせることで，リズムやその重なりについての今回の学習を合唱にも活かすことができた。班で手拍子をする際，手拍子がずれたり，ぴったり合ったりといった状態に生徒は魅力を感じることができた。個人で創作したリズムの音楽性が低かった。リズムを創作する際，変化や反復など，もう少し音楽の仕組みをヒントにした創作をすることも必要であった。

**(1) 対象**

第９学年

**(2) 授業構成**

○題材　歌をつくろう

○ねらい

９種類のリズムを組み合わせながら，旋律としてのまとまりがあり，伝えたい内容を表現できる旋律をつくることができる。

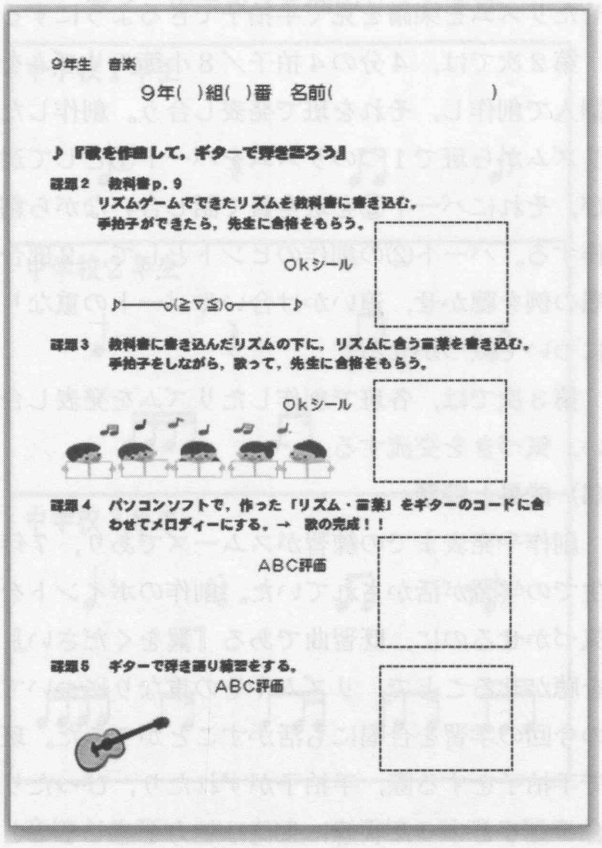
**(3) 授業の概要**

第１次では，７・８年生で個人で８小節のリズムをつくり，手拍子をする。

第２次では，前回つくったリズムに合う言葉をつけ，手拍子をしながら歌う。

第３次では，音楽ソフトを利用して，指定したコードに合わせて音高をつけ歌にする。

第４次では，ギターで弾き語りをして，交流する。


９年生　音楽

９年(　)組(　)番　名前(　　)

♪『歌を作曲して，ギターで弾き語ろう』

課題２　教科書p.9
リズムゲームでできたリズムを教科書に書き込む。
手拍子ができたら，先生に合格をもらう。

Okシール

課題３　教科書に書き込んだリズムの下に，リズムに合う言葉を書き込む。
手拍子をしながら，歌って，先生に合格をもらう。

Okシール

課題４　パソコンソフトで，作った「リズム・言葉」をギターのコードに合わせてメロディーにする。→　歌の完成！！

ABC評価

課題５　ギターで弾き語り練習をする。
ABC評価

図４　ワークシート

**(4) 成果と課題**

第２次までを実施しており，第３次以降は今後実施の予定である。第２次までは，リズムに言葉をつける活動をしたが，７年生での活動からさらに発展させることができず，ただ言葉を当てはめるような状態になってしまった。リズムに合った言葉など，例を示して気づかせをつけていく必要がある。第３次以降は今後の取り組みであるが，コート進行を決め，そのコードの構成音を中心に旋律を創作させていくことで，音楽的にまとまりのある旋律を創作する経験をさせたい。

## ３　まとめと今後の課題

試案した一貫カリキュラムから，創作を通したリズムの学習について，授業開発を行った。音楽科の少ない授業数の中では，リズム／創作を中心とした単元であっても，そこに鑑賞や合唱や器楽といった活動を効果的に取り入れること，また，リズムだけでなく旋律の流れとかパートどうしの重なりといったリズム以外の音楽の仕組みについても発展的に学習していくことが必要であると感じた。今回開発した授業をさらに改善していくこと，また，音楽の要素を系統性の軸とするだけでなく，「日本の音楽」といった学習分野に注目しそれを如何に系統的に学習していくのかといった視点での授業開発も行って行くことが今後の課題である。

## ＜参考文献＞

1) 小原光一他　「中学生の音楽１」教育芸術，2013，教育芸術社，2013

2) 小原光一他　「中学生の音楽２・３上」教育芸術社，2013

3) 小原光一他　「中学生の音楽２・３下」教育芸術社，2013